

◎新型コロナウイルス禍で考える日本の行方

◎第24回 我が家に新型コロナウイルスが襲ってきた

全国日本語学校連合会 研究員 對馬好一

8月27日(土)の夕方、「仕事で出かける」と言っていた娘が自室で昼寝をしたまま、なかなか起きてきません。部屋を覗くと、「私、熱がある。コロナに罹ったかもしれない」。

幸い、自宅の近くにあり土曜日曜でも発熱外来をやっているクリニックの予約がインターネットで取れたので翌28日(日)に受診させると、「コロナかどうか微妙だが、PCR検査をする」と言われ、29日(月)昼前には陽性判定が出ました。

それ以来、我が家には計3人の陽性者がたて続けに出て、健常者が少数派になり、約2週間にわたり右往左往。その「新型コロナウイルス闘病記」をお届けします。療やホームステイで生活されている方をはじめ、皆様に参考にできることがあれば、うれしい限りです。

我が家は、筆者夫婦と娘、その小学校2年生の息子(筆者の孫)と筆者の次男の5人家族です。娘は離婚していて、元夫は九州に住んでいます。長男は結婚して都内の別の家に住んでいます。こちらは半年ほど前に夫婦そろってコロナに罹ったものの、4歳の娘(もう1人の孫)には移らなかつたようです。

週明けの29日朝は、母親(娘)の検査結果がまだ出ていませんでした。そのため、孫を学校に普通通り行かせましたが、登校後に母親のコロナ陽性が分かったので、家族全員が濃厚接触者になりました。授業の途中で孫を学校から呼び戻し、学校の事務員さんに自宅まで送ってきてもらい、玄関のドアをちょっぴり開けた隙間から「ご迷惑をおかけします」と言いました。事務員さんはニコニコして「お大事に」と言ってくれたので気分的に助かりました。

筆者夫婦はそれまで毎朝熱を測っていましたが、なぜか、こういう日に限っていつも使っている体温計が見当たらずに大慌て。何とか古い体温計でみんなの熱を測りましたが、娘以外は全員平熱なのでとりあえず一安心しました。

娘は熱が出る前日は普通に出勤していて、熱が出た日は、「学生時代の友人が外国から帰ってきたので、子供を連れて昼食を一緒に食べに行く」というので車で送っていき、帰りも店の近くの自然公園まで車で迎えに行きました。後でわかったことですが、発症したのは熱が出る前日で、その時からおなかが痛かつたそうです。車の中には、娘の友人一家も一緒に乗

っていて、後で聞いたらやはり発症したそうです。暑い日で乗車人数も多いので窓を閉め切り、クーラーをガンガンとかけていました。なぜか、運転していた筆者には移りませんでした。

東京都のサポートセンターに連絡したところ、抗原検査キットと共に、大きな段ボールが2つ届きました。開けてみると、ぎっしりと食料や飲み物が入っていました。たくさん届いて「これでだれも買い物に行かなくなっても飢え死にしないで済む」と思いました。しかし、インスタント麺や缶詰、お菓子などが多く、お粥などは入っていません。美味しいものや役に立つものも随分ありましたが、「病気でこんなモノ食べるかな」と思うものも正直たくさん入っていました。

住んでいるところは昔、義母の介護をするために建て増した家なので、細長いですが部屋数が多く、トイレ、洗面所、風呂場がそれぞれ2カ所あります。片方の風呂場は使っていませんでしたが、1週間前にシャワーだけは使えるようになっていました。トイレ、洗面所、シャワーが2セットずつあるのは、普通の家とは違い、恵まれていました。しかし、廊下や台所は共通です。早速、健常者の歯ブラシや石鹸、タオルなどを、健常者用に使う洗面所に運びました。

孫は母親（娘）の発熱前は一緒に寝起きしていましたが、発熱を確認してからは筆者夫婦（祖父母）の部屋に引き取りました。

クリニックから言われたのは、「感染者（娘）は発症から10日後の9月5日まで、ご家族は濃厚接触者なので、2日まで自宅隔離してください。家の中では全員が不織布マスクをして、家から出ないでください」という事。自宅隔離中の食材を買いに行こうと思っていたので、「え、自分も出ちゃいけないの？」とお先真っ暗になりました。

そこで、厚生労働省のホームページに出ているコロナ対応の部分を端から端まで読みました。同じようなことが、各自治体のホームページにも載っているようですが、食料や医薬品などの買い出しは「不要不急の外出禁止にあたらないので、患者のご家族はマスクをして会話を極力控えてなら買い物をして構いません」という項目を見つけ、自家用車で近くの大型店舗まで買い出しに行きました。

孫は母親が個室で寝ているので、祖母にべったりくっついて離れません。買い物から帰ると、その祖母（妻）が「私も熱がある。感染したのかな」と言います。すぐクリニックの予

約が取れたので行かせると、お医者さんは「熱があるし、娘さんも発症しているので、みなし陽性です」とか。普段、孫の友達が来た時に遊び場として使っている和室にマットレスと布団を敷いて妻を寝かせ、寝室には、筆者と孫の2人だけで寝ることにしました。

さて、困ったのは食事です。自宅で仕事をしているものの、普段は家事をほとんど手伝わない次男が「ボクが作る」と立候補してくれたので大いに助かりました。それ以来、夕食は毎日次男が作りました。「自分で食べたいものを作ってみんなに分けるだけだから問題ない」と言っていますが、毎日違う献立が並び、「レシピなど見ないで自分の感覚でつくっただけ」というのでびっくり。最近始めた趣味がキャンプなので、その時の食事に対する頭の回転がうまく使えたのかも知れません。

ところが、娘は発症時からずっとおなかの調子が悪いのです。孫はまだ8歳なので、大人の味にはついていけません。流動食や子供向け味付けの物を別途つくらなければならないので、手間が二重、三重になります。そして、出来上がった食事はお盆に載せ、患者の分は部屋の前に届けます。食器にウイルスが付いているといけないので、なるべく紙皿や割りばしなどを使い、食事後はそのまま捨てます。自宅の食器を使った場合や、運んだお盆は、すぐに洗い、除菌剤をかけたり除菌ティッシュで拭いたりしなければなりません。除菌道具は普段は家に少しずつしかないので買いに行き、一緒に新しい体温計も2つ買ってきました。いちいち消毒をしないで済むように人数分をそろえたのです。

孫の学校の授業は、学校のiPadを自宅に持ってきて、1日1-2時間程度はオンラインで参加できます。世の中進んでいるものだと感じました。

だんだん、自宅隔離生活に慣れてきた30日(水)の午前2時頃、気持ちよく寝ていた筆者の足が引っ張られました。驚いて起きると、横に寝ていたはずの孫が足元に立っています。身体を抱き寄せると、孫の体中が熱いのです。「移ったかな？」

早速、2階の部屋で寝ていた娘に連絡し、サポートセンターに電話してもらい、意見を聞いたところ、「私(娘)用に届いている抗原検査キットで判定してくださいと言われた」との返事。孫を廊下に連れ出して座らせ、嫌がるのに無理やり綿棒を鼻に押し込み、検査をしたら、「陽性」になりました。クリニックのこの日の予約を取って昼頃、オンライン授業を抜け出して受診しました。キットの結果を見せ、診察してもらうと、「陽性ですね。この子は9月

10日まで学校に行けません。ご家族も5日まで自宅隔離を延長してください」とのことでした。

クリニックに行く時は、車の窓を全開にして、エアコンから強風を噴出させ、孫を後ろの席に座らせて送り迎えしました。前の2人の時は、家族が患者と一緒に車に乗ってはいけな
いかと思い、タクシーを呼んで1人で行かせましたが、東京都から届いた「新型コロナウイルス感染症 自宅で療養されるみなさまへ」というパンフレットを見ると、「受診の際は、公共交通機関は使わないでください」と書いてありました。あの運転手さんたちに移って
いなければいいのですが…。

孫がクリニックから帰って来てからは、「同じ患者同士だから」という理由で、孫を娘の部屋に行かせました。孫にとっては親子で一緒になれてよかったですし、母親や祖母が発症して
から、一日中孫と一緒にいた筆者はようやく自分の時間が取れるようになりました。

隔離期間中はお互い、同じ家の中にいながら、直接会うことができないので、電話や
LINEで連絡を取り合い、食事ばかりでなく、患者から「お茶が飲みたい」「アイスクリーム
が食べたい」「今日の食事は軽くして」などの連絡をもらい、走り回っていました。廊下など
共用部分では直接会わないように努めました。

家の中でマスクを一日中付けていて種類によっては耳が痛くなったので、いくつか付け替
えてみました。患者の洋服やタオル、シーツなどはこまめに洗濯し、食器も使うとすぐ洗う
習慣を付けました。そして、患者が触ったところはできる限り消毒しました。

3人は立て続けに感染しましたが、これらの対策を取ることで、同じ屋根の下にいても全
員が感染するわけではないことがわかりました。感染対策をそれなりにやっていたら、感染
拡大を防げるのでしょうか。実は、孫をクリニックに連れて行った日の翌日、筆者も熱が
37.2℃に上がりました。早速抗原検査をしましたが、陰性で、しばらくして熱も下がりました。
普段から家族がインフルエンザにかかっても移ったことはありません。移らない体質の
人もいるのかもしれませんが、そこは、医師でもないのわかりません。

9月6日（火）以降、娘、妻、孫の順に徐々に隔離解除、社会復帰し始めました。隔離後
半は、隔離している人、隔離解除した人と、かかっていない人の生活範囲の線引きが難しく
なってきました。しかし、7日付『産経新聞』によれば、政府は自宅療養期間を10日間から
7日間に短縮することを決めたとか。そのため、最後の患者である孫は予定より2日早く、8
日（木）で隔離を切り上げ、9日（金）から登校しました。隔離の後半は感染対策に気を付
けていれば、自宅内では厳格な隔離をしなくてもよかったのかもしれない。とにかく、何
とか乗り切ることができました。

この2週間の生活は大変でしたが、我が家で起きたこと、対処の方法をご紹介しますこと
で、今後の感染対策に一部でも役に立てば幸甚です。